

マレーシア

活動制限強化による消費低迷が続く

SMBC Asia Monthly

日本総合研究所 調査部

副主任研究員 塚田 雄太

E-mail: tsukada.yuta@jri.co.jp

■活動制限再強化で消費が再び悪化

マレーシアの2020年10～12月期の実質GDP成長率は前年同期比▲3.5%と前期(同▲2.6%)から減少幅が拡大した。この背景には内需の低迷、特に実質GDPの60%(2020年)を占める消費の悪化がある。実際、民間消費は前期の同▲2.1%から▲3.4%と減少幅が拡大した。輸出は同▲1.8%と前期の同▲4.7%から改善したが、総固定資本形成は同▲11.9%(前期:同▲11.6%)と低迷が続いている。

消費悪化の主因は、感染が再拡大するなか、活動制限が再強化されたことである。ムヒディン政権は昨年10月中旬に「回復活動制限令」から一段階レベルの厳しい「条件付き活動制限令」へと活動制限レベルを引き上げた。さらに、2021年に入ると、クアラルンプール等主要な地域でさらに厳しい「厳格な活動制限令」が実施された。

2021年入り後も消費の悪化は続いている模様である。「Google Community Mobility Report」によると、1、2月の人出が基準値(新型コロナ前の曜日別中央値)から平均約4割減少した小売・娯楽施設をはじめ、交通機関や職場でも人出は減少しており、10～12月期よりも落ち込み幅が拡大している(右上図)。

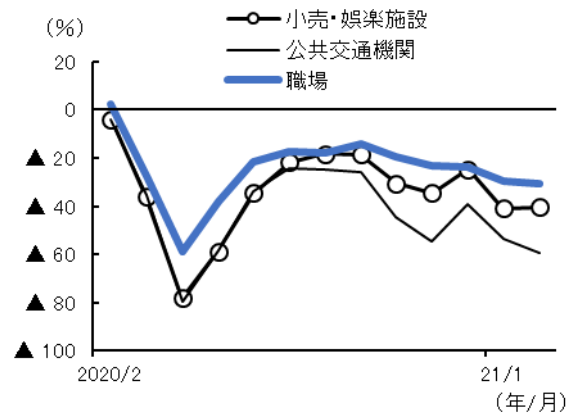
■人口を上回るワクチンを確保し、2月より接種を開始

足元では、活動制限措置を再び緩和する動きもみられる。しかし、新規感染者数が高水準で推移し、感染力が強いとされる変異種の拡大リスクもくすぶるなか、再度制限強化に踏み切る可能性も排除できない。

こうしたなか、マレーシア政府はワクチン接種を推進している。マレーシアは2月末時点で、COVAXファシリティを通じた分を含み米国、英国、中国、ロシアから6,670万回(人口カバー率:109.65%)分のワクチンをすでに確保している。また、2月24日より医療や防衛、治安、エッセンシャル産業従事者等へのワクチン接種を開始しており、4月には60歳以上の高齢者、慢性疾患患者等、5月からは18歳以上のマレーシア在住者への接種が開始される予定である(右下表)。

今後、ワクチン接種が計画通りに進み、それに伴い活動制限措置も緩和されていけば、年後半以降、マレーシア景気への下押しが徐々に和らぐことが期待される。

<マレーシアの人の動き>



(出所) Google「Google Community Mobility Report」
(注) 各月の平均。

<マレーシアのワクチン接種プログラム>

フェーズ	期間	対象	累積接種率
①	2021年2～4月	①医療従事者 ②防衛・治安・エッセンシャル産業従事者	1.5%
②	2021年4～8月	①フェーズ1対象者のうち未接種のもの ②60歳以上の高齢者、慢性疾患患者、障害者	30.2%
③	2021年5月～2022年2月	18歳以上のマレーシア在住者	72.0%
④	未定	不法滞在者	—

(出所) マレーシアCOVID-19ワクチン特別委員会「National COVID-19 Immunisation Programme」、マレーシア統計局、各種報道を基に日本総研作成

当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。